

富山高校物語VI 探究し、学び合い、高い成果をあげる

学びたい者が集う富山高校では、生徒と教員が志を同じくし、切磋琢磨し、真剣に学びに取り組んでいます。

探究科学科（理数科学科、人文社会科学科） 世界唯一の調査研究を通じて

高校生の時代に、課題発見能力、課題解決能力、成果発表能力を身につけよう

知財価値が大切になっている現代では、与えられた問題を紙の上で解くだけでは、大学や社会で通用しません。課題を発見し、解決し、発表する能力、それによって周りを動かし世界に影響を与えること求められているのです。

高校生時代からこの力を身につけるため、理数科を発展させて理数科学科と、人文社会科学科を設置しています。

1年次は「探究基礎I」週1時間（普通科の「総合的な学習の時間」週1時間相当）で、数名のグループに教員1人がついて論理的思考力やプレゼンテーション能力などを大きく伸ばします。

自分たちの興味ある事柄について、世界の調査研究を探り、オンリーワンの課題を見つけ、その解決を図る、世界唯一の活動に取り組めます。

9月の校内文化活動発表会や、12月の三校合同発表会でのグループ発表を通じて、能力を鍛えていきます。

教科学習では「数学」と「英語」が、少人数で学習しています。

こうした探究科学科での取り組みの成果は、総合的な学習の時間などで、普通科の教育にも生かされています。



文化活動発表会でのプレゼンテーション

全校でアクティブ・ラーニングに取り組む

平成25年からは全校で、生徒自らが考えるアクティブ・ラーニングに取り組んでいます。アクティブ・ラーニングは、学生の学力向上のため、ハーバード大学で提唱された教育方法です。学生の資質が大きく向上することから、日本では東京大学や京都大学が取り入れており、本校は両大学をはじめ日本トップクラスの教授を招聘し、県内高校として初の研修会を開催し、導入に取り組んでいます。

高校の授業に、学び合いや協同学習を進め、友人とともに学び、高めあっています。



アクティブ・ラーニングを取り入れた授業風景

卒業時の学力は全国トップクラス

これらの成果として、大学合格実績に基づく全国誌による高校卒業生の学力評価※では、富山県はもとより、全国でもトップクラスを維持しています。

この調査は、一握りの人間ではなく、卒業生全員の達成度を評価するものであり、これによって、本校が、入学時の全国上位校よりも、卒業時までには、生徒の学力を大きく伸ばしていると言えます。

※ 全国誌による高校卒業生の学力評価 『週刊ダイヤモンド』平成26年10月2日別冊号「本当に子どもの力を伸ばす学校 中高一貫校・高校ランキング」「卒業生1人当たりの国公立大学合格力」（平成26年3月卒業生）で、全国1,678校中43位（平成25年は全国21位、平成24年は60位でいずれも県内トップ）



中学校で教える
学習ボランティア活動